

# 青森県立弘前中央高等学校

SDGsの開発目標を基盤とした「身近な課題から国際貢献へのつながりを見据える」科学部の活動に向けて  
 一廃チョークを用いた、実験廃液からの金属イオンの分離と実社会への応用

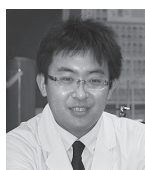


## 研究活動で地域の課題を解決する!

### 研究テーマの共通点はSDGs

青森県立弘前中央高等学校は東北屈指の桜の名所である弘前城の東に隣接する。同校の自然科学部は、2020年の青森県高等学校総合文化祭（総文祭）自然科学部門で最優秀賞を獲得し、7月末に始まる全国総文祭「紀の国わかやま総文2021」への出場を決めている。

部では複数の研究を行っているが、研究テーマにはSDGs（持続可能な開発目標）を意識するという共通点がある。最優秀賞になったリングに含まれるペクチンの研究でも、SDGsの目標12「つくる責任 つかう責任」などを意識し、廃棄リングの新たな利用法を模索した。全国総文祭での発表を控える2年生の竹内裕生さんと嘉手苺日向大さんも「地域の課題にSDGsを絡めたことが好評価の一因だと思います」と話す。



●実施担当

柴田大毅 教諭

●活動のモットー

「科学は実験をしてみたい」という考えのもと、本格的な実験ができる環境を整えて、科学好きを増やしたい。



### 身近な課題が研究の出発点

廃チョークの金属イオン吸着能に着目した研究でも、顧問の柴田大毅教諭は「化学の実験で発生する廃液などの廃棄物減量を目指す研究で、これもSDGsの目標12などにつながるものです」と話す。さらに、研究を担当する2年生の中居佑太さんは「県の特産品であるホタテの貝殻もチョークと成分が同じなので、将来は、それを使って川の浄化などに役立てられないかと考えています」と先を見据える。

特産のリングに着目したペクチンの研究と同様、ここでも地域の課題解決が出発点となっている。さらに中居さんは、「祖父が米農家なので、将来は農学を研究して冷害に強い品種の開発に携わりたい」と身近な課題を解決する姿勢を貫く。日々の研究は根気のいる作業の繰り返しだが、部員たちが「楽しい」と口を揃えるのは、「目の前の課題解決」という研究の本分に触れているからに違いない。

(個別助成)



学校概要



青森県初の高等女学校として開校し、共学化した伝統校。県内有数の進学校だが部活動も盛ん。講堂は市の景観重要建築物。

設立：1900年

生徒数：715人

所在地：青森県弘前市蔵主町7番地1

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索